

平成30年第6回
上小阿仁村議会定例会
会 議 録

平成30年12月11日（開会）

平成30年12月13日（閉会）

13時20分 再開

○議長（小林信） 再開いたします。

○議長（小林信） 休憩以前に引き続き一般質問を行います。次に6番 大城戸ツヤ子君の発言を許します。6番、大城戸ツヤ子君。

（6番 大城戸ツヤ子議員 一般質問席登壇）

○6番（大城戸ツヤ子） 住民の健康づくりについて3点質問したいと思えます。

まず、健康ポイント制度についてですが、住民の健康づくりについての質問は、今回で4回目となりました。

村は、健康寿命秋田県一を目指していると伺っています。健康寿命を延ばすことは医療費の軽減にもつながると思います。行政報告には、11月18日、19日と健康ポイント事業の先進地を訪問視察しています。秋田県では、既に、大館市、能代市、にかほ市、美郷市、羽後町の5市町が実施しております。今年度からは男鹿市、仙北市が事業を始めました。また、近隣の北秋田市も健康ポイント制度の実施を検討しているそうです。

村では各種の健康講座を開催していますが、参加者が少ない。また、集落サロンの開催も進めていますが、参加者の顔ぶれはいつも同じで男性の参加者が少ないことに集落のリーダーの皆さんは人集めに難儀しているのが現状です。

ポイント制度は、健康に関心を持ってもらうためにも、早期の実現をお願いしたいと思いますが、如何でしょうか。

次に、職員の健康管理と禁煙について伺います。

職員の健康については2点ありますので、1点目ですが歯についてです。

職員の健康診断の受診率は100%と聞いております。再検が必要になった職員にはぜひ再受診をするようにご指導をお願いします。

現在、人生は100年時代と言われるようになりました。健康であればこそのことだと思っています。

厚労省は80歳で20本の歯を残そうと8020運動を進めています。秋田県県民歯科疾患実態調査によると、40代は全国平均と同じ27.8本。50代では急に本数が減り、全国では25.85本に対して、秋田県は22.3本。60代になると22.75本に対して18.75本まで下回るそうです。

村の歯周疾患健診は年代別の制限があります。職員も同様だそうです。医師によると歯を守るためには6ヶ月毎の口腔ケアが大事と聞きました。歯からの病気に対する疾患が多いからです。

そこで、職員も自分の歯に関心を持ち、意識を高めていただきたい思います。診療所では歯の受診ができます。予約制ですが1年に2回。時間休が取れるような配慮が欲しいと思いますが、如何でしょうか。

健康管理の2点目ですが、残業時間と食事の関係です。以前、武石議員が職員の健康管理体制と働き方改革の質問では、村長は超過勤務の解消が問題だと述べられました。また、夜の残業が必要な時は、上司が付き添うとコメントしております。しかし、以前、現役の課長が亡くなりました。私は激務だったと思います。その点では一向に改善されておられません。むしろ必要な時は、上司が付き添うということは如何なものでしょうか。

残業は、その時の事情により様々だと思いますが、職員はいつ夕食をとっているのでしょうか。自宅に帰ってからでしょうか。もしそうだとしたら、将来、生活習慣病の発症率が高まります。また、空腹状態ではかえって仕事への集中力が欠けるとと思いますが、如何でしょうか。家族も心配しています。やっぱりその点は残業と食事ということで考えてみていただきたいと思います。

次には禁煙についてですが、県は健康寿命を延ばすために、秋田県健康づくり県民運動巡回キャラバンを実施して1年が過ぎました。

上小阿仁村の健康宣言は「禁煙・運動習慣など健康づくりに取り組む村民を増やします」と掲げました。理由は喫煙者の割合が全県に比べ高い状況であるということですが、しかし、職員には禁煙について十分な説明をして理解を得たのでしょうか。この1年間、村は、禁煙というテーマに対してどのような取り組みを行いましたでしょうか。職員の喫煙者の実態はどうでしょうか。把握しておりますか。

県では、この10月から前面禁煙をスタートしました。県では喫煙対策に関する出前講座を実施しておりますので、学習してみても如何でしょうか。

次にラジオ体操の実施度について伺います。ラジオ体操実施のきっかけは、平成27年5月10日の小・中学校の運動会だったと記憶しております。校長室で、昼食を終えた後の会話だったと思います。ちょうど、5月27日はチャレンジデーを控えていました。ご存知のとおり、チャレンジデーとは地域住民の健康づくり、まちづくりを目的として全国一斉に行われるスポーツイベントです。

人口規模がほぼ同じ自治体同士が住民のスポーツへの参加率を競い合うのです。上小阿仁村は2回目の参加となりました。15分間の運動が要求されます。

当時、村長は公約に健康づくりを積極支援しますと掲げていましたので、チャレンジデーが終わると運動熱が下がるので、ラジオ体操を流すことで運動が続けられるかも知れないということでスタートしたと、私は記憶しています。

それから、3年半が過ぎました。庁内では午後3時になりますと職員によるラジオ体操が行われている様子が見受けられます。住民の皆さんは、どのくらい行っているのでしょうか。調査したことがありますか。そろそろ工夫が必要かと思われませんが如何でしょうか。特に冬の6時半は、高齢者は寝ていたりし

て余り参加できない状況になるかも知れませんが、そういう点は如何でしょうか。

以上です。

○議長（小林信） 答弁を許します。村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 住民の健康づくりについてというふうなことで、健康寿命日本一を秋田県が目指している中で、上小阿仁村は、健康長寿秋田県一というふうなことで対応させていただいておるところであります。

先ず最初に、健康ポイント制度の導入について、少し行政報告の中でもお話をさせていただきましたが、少し答弁をさせていただきたいと思います。

先ほど議員さんからも言われたとおり、健康ポイント事業につきましては、秋田県内の市町村においても導入が進められてきておりました、村としましても、今後の導入に向けまして、全庁挙げて取り組みとなるよう健康づくり担当以外の職員についても職員研修で先進事例を学ぶ機会を設けさせていただいたということてあります。

健康ポイント制度ということにつきましては、先ほど言われたとおり健康づくりに関する事業に参加をした場合にポイントが与えられ、貯まってくると、それを商品券、もしくは図書券等に交換できるというふうな特典が貰える仕組みとなっております。日頃、運動に余り興味のない方でも、そういうふうなことがあって健康づくりの運動とかに参加をしていただけるような狙いがあるというふうに認識しております。現在のところは、健康管理事業の洗い出し、それからポイント等交換する特典等のあり方などの課題の整理を行っている段階であります。

今後は、県内他市町村の実施方法なども参考にしながら、村に合った実施方法の検討を進めさせていただきたいと考えております。

2番目の職員の健康管理ということてあります。

喫煙のことについて先にお話をさせていただきますと、喫煙につきましては、日本人の疾病による死亡者にとって最大の原因となっていると認識しております。秋田県においても、健康秋田いきいきアクションプランに禁煙、受動喫煙ゼロへの取り組みが取りあげられております。村としましても、役場職員だけではなく、広く住民に対して事業やイベントの機会を捉えて、県の協力を得ながら禁煙等について啓発活動に取り組んでいるところてあります。

受動喫煙の防止に向け、県では公共施設の敷地内禁煙を実施しておりますので、また、県内の市町村においても同様の措置をとる自治体が増えてきております。

村におきましても、職員の健康管理のための禁煙対策及び来庁者の受動喫煙

防止対策として敷地内禁煙が必要であるとの認識であります。今後、そのための環境整備を検討させていただきたいと考えております。

2点目の歯の健康についてというふうなことになります。これについては、私も認識不足がありまして、この間、初めて知ったわけですが、たまたま腰が痛い人がおられまして、原因が分からないというふうなことがありました。腰ですので、整形へ一所懸命行っていた人が、どうも整形の方ではなさそうだということがありました。そうしたら、どうも、ばい菌が入ったのではないかということがありまして、どっから入ったのかということがあったんですけども、どうも歯からではないかということがありました。

ですから、歯がいかに大事であるかということは再認識をしたところであります。そういう意味で、歯の検診、歯の掃除等々について、そんなに時間がかかるわけでありませぬので、ぜひ、検診を受けていただくように、職員には指導していきたいと思っております。これまでですと、休暇、時間休等についても取れるような対応は、仕事の状況によってありますので、ぜひ検診を受けていただくようお願いをしていきたいと思っております。

超過勤務の関係になります。これについては、出来るだけ超過勤務をしないでいただきたいというふうをお願いをしているところでありますけれども、どうしても、時期的なもの、仕事の内容等によって、超過勤務をやらざるを得ない場合があります。それについては、あくまでも原則的には上司からの命令があつて超過勤務をするというのが制度上になっていきますので、そういう意味においては、上司が必ず命令を出して、担当者と一緒に仕事を担当するというふうなことで、これまで指導させていただいているという状況にあります。

それともうひとつは、先ほど言われたとおり、食事、いわゆる夕食をとっているのかというふうなこともあったものですから、仕事の能率等々から考えると、仕事の状況によって変わると言うんですけれども、出来れば、早朝に、どうしてもやらないといけないのがあるとなれば、早朝にやっただくような指導はさせていただいて経緯がございます。一流企業等になりますと、早朝出勤は、早朝の仕事ということで、朝食が付いた部分もある所も聞いております。そういう意味では、朝食を食べてからやるような対応も、ということは、職員の方に指導をさせていただきたいと思っております。

3つ目のラジオ体操の実施についてであります。

これにつきましては、防災行政無線によりましてラジオ体操の放送を、村民の皆さんが気軽に体操ができる機会を提供しているということで、体を動かして、気持ちもリフレッシュさせていただきたいということで、多くの方の健康づくりにつながることを期待して実施をさせていただいております。

どのくらいの方に実施をさせていただいているか調査はまだしてございませんの

で、より多くの方に実施してもらいたいと考えておりますけれども、夏の分ですと、たまに田圃で体操をされている方も見かけました。ですから、一生懸命やっていた方、いわゆる田圃仕事というのは腰が痛くなりますので、そういう意味では、一呼吸おきながら腰を伸ばしたりということにもすごく効果があったのではないかと考えております。それと併せて、元々ラジオ体操をしていただきたいということで、10月からは小学生の協力をいただきながら体操前の呼びかけを児童の声でやらせていただいております。子どもから元気をいただきながら健康づくりにつなげていきたいと考えております。

役場では、午後3時には庁内にラジオ体操が流れます。職員が率先して取り組むことで住民の皆さんへの浸透を図っていききたい。これは来庁者がおられますので、職員が一生懸命ラジオ体操をしているんだということを知っていただいて、住民の方に広まっていけばというふうに考えております。

朝の6時半のラジオ体操の部分については、これからどうしても窓を閉めている状況の中で聞こえづらいということもあろうかと思っております。そういう意味ではIP電話等の活用も今後少し検討をする必要があるのかなというふうには考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

以上でございます。

○議長（小林信） 大城戸ツヤ子君。

○6番（大城戸ツヤ子） ラジオ体操は、今年でもう実施されて90年になるという歴史深い体操なんですけれども、先ほど、こゝにコールとかは、この前、こゝに発表会の中でも話しておりましたけれども、朝6時半のそういう、こゝにコールがたぶんそんな影響でコアピョンこゝにコール、7時になるのかな、と思っております。ですから、後、それから8時15分には私と同じような高齢者1人暮らしとかにも、そういうので歯みがきをしましたかとか、そういうことで、変更してくれるところがありますので、ぜひ、ラジオ体操も考えてみていただきたい。特に、おもしろかったのはラジオ体操も、ご当地ラジオ体操があるそうです。多分お聞きしているかもしれませんが、例えば、秋田弁バージョンがあるそうです。お話チョツと言いますけれども、例えば腕を前からあげて大きく背伸びの運動は、秋田弁では腕をめえからうえさあげて、でっけぐ背伸びすべし。だそうです。また、前下に3回、はずみをつけて曲げるって言うのは、はずみっこつけて、やっけぐ3回やるべという感じで、なんか曲を聴いたらモチベーションがあがるそうですから、こういうのも、土曜日、日曜日或いは集会のとき、健康教室とか、あるときにはそういう保健師さんなり秋田弁のそういう方法を捉えていったほうが結構面白く、おかしく笑えてやれると思っておりますので、これは紹介ですけれども、ぜひ、考えていただきたいと思っております。

それで、タバコのことですが、ぬるいですね。村長の今の考え方は。やっば

り職員が何名吸っているか、村の職員何名吸っているか、それを把握して、そこから始めていかなければいけないと私は思うのです。よくタバコを吸えない状況では仕事も手につかないという言い訳をします。20代から30代の人が、もしそういうことを言ったとすれば、成人過ぎてからのタバコですから、まあせいぜい10年間そこいらだと思いますので、本当に私は身体のことを考えたらやめられるのではないかな。高齢者、年代の高い人に比べてやめられるのではないかなと思います。或いは気分転換ということも言って、かえってそれがストレスになって病気をつくるということも言いがちですけれども、私は、それは言い訳だと思っています。

上小阿仁の平成28年度の死亡数は54名です。主な死因はガンが15名、肺炎が14名、心疾患6名、老衰5名、その他の疾患14名となっています。それで平成29年度の死亡者数は60名です。主な死因はガンが13名、心疾患が12名、肺炎が12名、老衰が7名、その他が16名となっています。

ガンや心疾患の発症リスクを大幅に高めると言われているのが、タバコに多く含まれる有害物質の発ガン性のあるタールです。最近、特に、喫煙や受動喫煙に影響を与える、それについてのセミナーが多く開催されていますので、ぜひ啓蒙する必要があります。ただ、残念なことに庁舎内にタバコの自販機が設置されています。これは便利性和しか思えないのですが、今、禁煙運動を進める、やりましょうといった時に、この自販機は必要ですか、もし村民に利便性を考える或いは税金、そういうことだけの対応でしょうか。もし本当に禁煙を進めていくとしたら、あれは私にとってはすごく見苦しいですけれども、せいぜいあそこからの収益は、全体で、あそこに飲み物もありますから、年間3万5千円ぐらいしか入っていませんので、そういうタバコを吸っている人には厳しいかも知れませんが、もし、村で本気にやるのだったら自販機は、私はどうかなと思うのですが、如何ですか。

○議長（小林信） はい、村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 禁煙につきましては、私も当時吸っていた時がありまして、何回もやめた経験があります。なかなか難しかったわけでありましてけれども、今、30数年止めてなりますけれども、今となってはすごく良かったなというふうに思っておりますので、ぜひ、皆さんに止めていただきたいというふうに思っております。そして、病院で何らかの病気で病院に入院をされ、例えば手術をされた方は必ずタバコを止めさせられるということがありますので、それほど、やはりタバコは身体に良くないのだというふうなことを病院では言っていると思っております。

ですから、職員にはぜひともタバコをやめていただきたいということでお願

いを、これからもしていきたいと。先ほども話したとおり、できれば、役場職員から率先してタバコを止めていただくために、少なくとも先ず公共施設の敷地内においては、今後いろんなところで吸えないような状況になっていますので、併せて村もそのような対応をとらせていただければということで考えております。

それから、チョッと私も今言われて本当にびっくりしました。タバコの自販機です。そのとおりだと思います。チョッといろんな契約とかがあると思いますので、チョッと調べさせていただきまして、出来るだけ、いろんなことがあって設置はしていると思いますけれども、健康のことを考えた時に、今どういうふうにするかというのを少し検討させていただいて、出来ればなくなるような方向で検討させていただきたいというふうに思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○議長（小林信） 大城戸ツヤ子君。

○6番（大城戸ツヤ子） タバコも歯も同じです。私は特に村の職員の皆さんは時間休というのは、どういうふうにとっているのかよく分かりませんが、さっき村長が話していましたが、歯から病気が起きやすい。糖尿病、いろんな成人病疾患にもつながると言われて、歯は命と言われるくらい言われていますので、感覚的ではなくて、年に2回、30分で、延べ1時間ですから、そういう啓蒙活動で、まして上小阿仁の診療所を使うことによって収入も得られますので、私は、ぜひ多目に見て歯の治療をしていただければいいと思います。

今さら私はもう70に近くなりますので、今さら啓蒙というのでは遅くはないのですが、年に2回はしています。歯も24本ありますので、そういう意味では歯の大切があると思ひますから、まず、村の職員が、歯並びが綺麗、歯が綺麗といったらやっぱり気持ちがいいですから、それで口も大きく開いてお話も出来ると思ひますので、私は歯を、村長を含めて理解してしていただいてぜひやってください。

口から食べて、飲む、当たり前なのが健康につながると思ひますので、私はこれをぜひ進めていってほしいと思ひます。今の状況では、健康に関しては考え方が低いと思ひています。特に、私は一番食事が大事だと思ひていますが、今まで何回か言っても検討するとかそういうことで、ずっとやってきて、それは進まないなあとと思ひて、今回はタバコ、或いはラジオ体操、そういう方向に目をつけて進めてきました。多分、ポイント制度も来年度に着実にやっていくのでしょうか。それは、今回、予算審議中だと思ひますけれども、そういう意味では進めているのでしょうか。ただ検討で、来年の秋ごろからやるとか、それはチョッと遅いのですが、そこはどうでしょうか。

○議長（小林信） 村長。

(小林悦次村長 登壇)

○村長(小林悦次) 歯の検診につきましては、時間休、これは各職員、年次休暇たくさん持っている、たくさん持っているという言い方チョッとあれですけども、ありますので、それを有効活用していただいて、ぜひ、まず歯を、年に2回ですので、それも2時間で済むという状況の中で、自分の対応出来る時間帯を選んでいただいて、住民の方々に迷惑のかからない状況の中で検診を受けていただきたいと思っております。

それから、ポイント制については、先ほどもお話したとおり住民福祉課関係の、いわゆる健康に直接関係するところだけではなくて、全部の職員を対象に、今回研修をさせています。ですから、ぜひこれを全課挙げて、いろんな形で全部の課に関係してきますので、これを進めるように、出来れば平成31年度の当初予算の中に、そういうポイント制が組めるような対応で、議会の方に相談をさせていただきたいというふうに思っておりますので、ぜひ、ご協議いただければと思います。

○議長(小林信) 大城戸ツヤ子君。

○6番(大城戸ツヤ子) 分かりました。ぜひ、健康については、上小阿仁が秋田県でナンバーワンになりたいと思うのだったら、もっと積極的に進めて欲しいということで、魁新報社にですね、恋の十字路という読者の投書コーナーがあるのですが、これは私とても好きで良く見るのですが、特に心を引いたのは教育と教養ということについて述べている読者がおりました。それはどういうことかということですが、ぜひ、これは村の職員にもあてはまると思えますし、もちろん、私にもあてはまることなので、チョッと最後に言わせてください。

「キョウイク」と「キョウヨウ」について述べています。あるコンサートで高齢の歌手が高齢者には教育と教養がとても必要だと話したそうです。教育は、「今日は、行くところがあるので、キョウイクで」、教養は「今日は、用事のあるキョウヨウ」という説明をしたので会場はどっと笑ったそうですが、教育と教養は、どちらも自分で身につけるものだということです。それで、10月中旬に職員が自転車に乗りながらタバコをくわえて、庁舎前を通り過ぎていったので、私は、アッというまの出来事で何も言えませんでした。ぜひ、役場職員も含めてキョウイクとキョウヨウのお手伝いを望みたいと思います。

これで私は、住民の健康づくりについて質問を終わります。

○議長(小林信) 6番、大城戸ツヤ子君。

○6番(大城戸ツヤ子) 防災について3点質問いたします。

先ず1点目ですが、小沢田集落と上小阿仁小中学校の対応についてですが、昨年も小沢田地区の現状から災害弱者の対応を伺いました。

地域の防災計画に基づき、災害発生が生じる恐れ、発生時には関係機関との情報を共有するという、全く形式的な得ない回答でした。で、がっかりしました。現在、小沢田集落は87世帯、197名の方が暮らしています。また、村営住宅は40戸で、その中は空室も空き家もあります。

特に高齢者の実態を見ますと、65歳以上の1人暮らしは16世帯、65歳以上の夫婦は19世帯、1人暮らしは6世帯、あとは残りが2世代、3世代同居です。しかし、半数は高齢者です。

台風や地震などで停電の場合の対応や、避難場所、避難ルートを実際に歩いて状況を確認する。幼児、高齢者の避難に誰が付き添うかを検討しなければなりません。

県民防災の日には消防署のご指導の下に、小沢田地区は非難誘導や応急手当訓練を実施しておりますが、この程度の内容で大丈夫かなと疑問に思っています。

先日、校長先生と防災訓練についてお話をさせていただきました。集中豪雨になると学校が避難所、避難場所となるので、とても気にしてきていました。

豪雨の時、教育委員会から電話があり、住民の人が避難して来るかもしれませんのでよろしくお願いします。しかし、8時まででしたが、誰も来ませんでしたから、その後帰りましたという内容でした。

小沢田公民館、トレーニングセンターも浸水となったら、避難場所は学校だと思います。避難時の対応のマニュアルはありますか、または、役場職員と先生の役割などのマニュアルはありますか。

次に、小中学校避難所開設訓練についてですが、現在、学校では避難訓練が2回、不審者対応などの不測の事態に備えて訓練を重ねていることを伺いました。

ここ毎年、異常気象による猛暑、豪雨、台風と自然災害の被害が特化しています。

人口減少に伴い、子ども達の力は宝です。災害は忘れた頃にやってくると言われています。

小中学校避難場所開設訓練は必要かと思いますが、如何でしょうか。

次に防災キャンプの実施についてですが、10月7日の小中学校の学校祭を見学しました。昼食時に校長先生との会話で、学校が避難場所になっているので、気になっているという発言をしてくださいました。

防災に関心を持ってくださって喜ばしく感じたことを覚えています。今、子ども達は「赤ちゃんふれあい体験」や「イングリッシュキャンプ」と継続学習が多いですが、その中に、防災キャンプ体験の企画も入れて欲しいと思います。

少年自然の家では、防災キャンプ体験も可能のようですから、ぜひ、検討を実施していただきたいと思います。以上です。

○議長（小林信） 村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 防災訓練についてであります。

1番の小沢田集落と上小阿仁小中学校の対応ということで、とりあえず一般論で含めて回答をさせていただきたいと思います。

災害発生の恐れがある場合、村から地区を指定しながら避難のための情報を提供いたします。

そして情報提供の方法としましては、避難所となる施設がある集落の代表に、施設の開放と地区の方々の避難が必要な旨の情報を伝えます。併せて、該当する地区の方々に分かるよう防災行政無線や「こあに電話」により避難の呼びかけを行います。

なお、村がこれまで避難を呼びかけた事例は、ほとんどが河川の氾濫の恐れによるものであり、被害の恐れがある場所も、これまでの事例を参考にしながら予測して対応をしております。

災害への対応の基本は、はじめに自助、次に共助、そして公助となります。

自助につきましては、自力での対応のことになります。避難が必要となった場合、自力での避難が基本となります。

次の共助につきましては、隣近所、或いは自主防災組織、集落会等による助け合い等のことになります。自主防災会や集落会でも避難訓練等で、避難の際、隣近所に声掛けをしたり、避難所まで歩いてみたりなど、避難の方法を確認されていることと思います。

公助につきましては、避難の呼びかけや救助活動などに役場や消防団、消防分署等が対応するものであります。残念ながら、災害発生の恐れがある状況において、村がバス等の車両を用意し住民の緊急避難に対応することは困難であるというふうに思っております。

村としましては、時間に余裕を持った避難ができるよう、早めに避難情報を伝達するようにいたしますので、自主防災会、集落等におかれましては、地区住民の避難行動に対し、助け合いの精神で対応をしていただくようお願いするものであります。

ご質問の件は、小沢田集落において、洪水や地震にも対応できる避難所が小中学校となっておりますので、小中学校への避難を想定した訓練が必要だというふうなご指摘だと思いますけれども、小中学校への避難訓練の実施にあたっては、自主防災会、集落会、消防分署のほか、学校関係者等の協力も必要となっておりますので、内容を含め検討させていただきたいというふうに思っております。

おります。

2 番目の小中学校避難所開設訓練については、小中学校は長期滞在を想定した避難訓練所としても指定されております。また、コアニティーも同様に指定避難所としてなっております。

これまでの訓練では、一時避難を想定した避難住民の受付などは実施をされておりますけれども、長期滞在を想定した訓練は余り実施されておられません。

そういった意味では、地震等大規模災害に対応した避難訓練として、避難所の開設訓練は必要であると考えますけれども、小中学校で避難所として想定しているのが中央ホール、柔道場、教室となっているため、授業等学校活動への影響も考慮しながら、会場となる施設や訓練の内容を検討させていただきたいと思っております。

なお、3 目のご質問に対しましては、教育長の方からお答えをさせていただきます。

よろしく申し上げます。

○議長（小林信） 高橋教育長。

（高橋充教育長 登壇）

○教育長（高橋充） 防災教育の重要性は、近年増々高まっております。小中学校の生徒のために防災キャンプも各地で少しずつ実施されるようになりました。

上小阿仁小中学校でも意識を高めるために、防災教育の一環として地震や火災を想定した訓練を2回、それから不審者の侵入への対応などの訓練を1回、計3回行って学習をしています。また、道徳の授業などにおいても命を守ることの大切さを考える機会がたくさんあります。

今後も、学校と協議しながら、防災意識を高めるための手立てをさらに考えていきたいと思っております。例えば、備蓄の食料を利用した防災給食、野外での飯ごう炊きの練習、消防署の協力を得て行う煙体験ハウスによる煙体験や消火器による消火体験、そして小沢田地区との共同による子ども達と高齢者の集落から避難所になっている学校までの歩行体験などは、実行可能であるというふうに学校と協議をしております。その他、避難所設営練習とか停電時を想定した宿泊体験なども考えられます。

地震や火災、水害などを想定しながら、子ども達の命を守るために、地域の人たちの命を守るために、関係機関と相談しながら、出来ることから進めてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（小林信） 大城戸ツヤ君。

○6 番（大城戸ツヤ子） 今、教育長からお話を聞いてうれしく思っております。

この前、先日こゝに発表会でいろんな提案がありましたが、その中に防災関係の参加とか避難訓練のことが全然述べられてなかったので、どのくらい子ども達にそういうお話をしているのかということを確認しました。やっぱり、今、教育長が話したように、子ども達が避難所の開設訓練をして、それで、自分たちの役割、それから、避難所に入ってくる受け入れ体制、非常食体験、そういうことは、やっぱり1回でも多くしていたら、子ども達がやっぱり大事ということがすぐ伝わって、ああいう発表会にも出てくるのだと思いますので、これからまだ冬が厳しくなりますので、来年になったら、ぜひ、校長先生のお話では、やっぱり教育委員会或いは消防署、あと村の住民課、総務、そういう一体となってやりたいということを知りましたので、そうすると小沢田集落もやっぱりどうしようかと悩んでいましたから、そういうことは絶対やらなければいけないというふうに役員がそう考えておりますので、来年度はそういう活動ができるように期待したいと思います。

それで、一般質問の通告はしていないですが、チョッと勉強している間に疑問を持って村で発行しているハザードマップの件ですが、私の手元には2010年4月と2015年4月分に配布されたハザードマップがあります。そうしたら今年の9月にNTTタウンページというのが配布されました。皆さんご存知だと思うのですが、分かりやすいように持ってきました。こういうのですが、これには指定避難所或いは緊急避難場所というふうにあるのです。でもハザードマップにはそれ程詳しくは書いていません。コアニティーも入っていないので、もう私は見直しが必要だと思いますので、こういうのを参考にして、ぜひ、作り直して欲しいと思います。

それで、私は特に避難所と避難場所の定説がされているところには備蓄の避難所を揃えた方がいいと思うのです。それで、その地区で防災訓練を併せて、1年に1回は非常食、そういう備蓄の非常食とか、防災グッズとか、そういうのを点検することによって住民の関心が高まりますし、或いは消費期限が切れたとか、そういうこともなくなると思いますので、こういう避難所、避難場所、こういう併設されたところの各集落には会長さんを含めて、もう一度、この防災に知識を高めるようにしたらと思うのですが、如何でしょうか。

○議長（小林信） 村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 毎回、毎回、施設等が出来るたびに避難場所等の見直し等も担当の中で検討しているという状況であります。そういう意味では、コアニティーが新しく出来ましたので、それも避難場所ということで検討しまして、各集落、関係する集落には一応説明をしているというふうな状況でありますけれども、ハザードマップの整備等については、これからということになります

ので早急にやるように対応させていただきたいと思います。

それから、備蓄品につきましては、そもそも量そのものにつきましては、村全体全員が備蓄品で対応できるというふうな量ではないです。これにつきましては、各自治体で持っているものを持ち寄って助けると、避難のあった地区に助けるというふうなことで、備蓄をしているというふうなことであります。そういう備蓄品について、各集落に分散させることが果たしていいのかは、これから検討させていただきたいというふうに思います。

危険分散する上では大変いいのではないのかなと私は思っているのですが、専門家の方にも、県の方にも確認させていただきながら、その備蓄品の保存場所についてはこれからチョッと検討させていただきたい思います。現時点では、コアニティーの脇の体育館と中学校のところに一応先ず、備蓄品をストックしているという状況ですので、それをもっと各集落に分配というか、備蓄を、場所を移すというのが果たしていいかどうかについては検討させていただきと思います。

○議長（小林信） 大城戸ツヤ子君。

○6 番（大城戸ツヤ子） 分かりました。前回、1年前に質問したのですが、その時は、検討する、検討するで全然希望が見えなかったのですが、今日は、教育長も含めて前向きな回答が得られたので、私はもっと防災に対する意識が高まると思います。ですから、ぜひ、今後もやっていただきたいのですが、この防災に関しては避難所と避難場所の、その併設されている地区がこれで8箇所くらいありますので、備蓄に対しても、そのこの住民の人全部を言っているわけではないですね。2、3人という形の数人ということで、そういうことを望んでいるので、私はもうチョッと村民の意識が高まるように、そういうのを設置した方がいいのではないかというのであって、人数分を設置しなさいというの言ってありませんので、そこは勘違いしないようにしていただきたいということと、村は、今、火災ぐらいで地震もなければ、影響もなければ災害もないということで、余り緊張感がないように思いますので、今後は、もうチョッと皆で意識を高めて、子ども達にもそういう防災の意識も高めて進んでいけたらなあと思います。

質問をこれで終わります。ありがとうございました。

○議長（小林信） これで大城戸ツヤ子君の質問を終わります。